

令和4年度第1回 島田市環境審議会会議録

1. 日 時 令和4年6月22日(水) 14時00分～16時00分
2. 会 場 島田市役所 会議棟C会議室
3. 出席者 <委員>
平井会長、木村副会長、竹林委員、河村委員、鈴木浩委員、
村上委員、岩本委員、増田委員、鈴木昌子委員、山本委員、清委員
<事務局>
松村地域生活部長、杉山環境課長、和田課長補佐、杉山係長、
渥美主査、後藤主事、小林書記、杉山書記
4. 傍聴人 0人
5. 開 会
6. 部長挨拶
7. 委嘱状交付 後日郵送。
8. 議事
(1)令和4年度版環境報告書について
 - ・ 質疑応答
 - (清委員)
第4章2-1「市内からの温室効果ガス排出量」にて現状値が平成29(2017)年となっているが、最新の地球温暖化対策実行計画では何年が最新年度となるか
 - (事務局)
令和元(2019)年が最新年度となる。
 - (清委員)
第3章での公共施設のZEB化検討についてはどうか。県の方でも今年度ZEB化設計指針を作っているが、具体的にZEB化を考えている施設はあるか。
 - (事務局)
建設中の本庁舎でZEBがとれるかというところ。
 - (竹林委員)
第3章59ページの数値目標3-1、1人1日あたりごみ排出量について達成度が要改善となっているが最終目標はいくつか。
 - (事務局)
R4に824g/人・日となっている。
 - (竹林委員)
ではR3年度実績が844g/人・日ということで要改善ということはごみの排出量はあまり減っていないということになる。これは非常に重要なことでこのあと審議することになると思うが、家庭からのごみ排出量はもっとシビアにみていくべきではないかと思う。

(2)田代の郷ガイドブック（仮）について

・ 質疑応答

（河村委員）

田代地区周辺のハイキングコース等はガイドブックに記載するのか

（事務局）

周辺も盛り込みたい。

（平井会長）

今年度はデータ集計を行い、来年度印刷して令和6年度以降に市民へ公開することになるのか。

（事務局）

早ければ令和5年度中だが、令和6年度で考えている。

（岩本委員）

周知や配付の方法はどうか

（事務局）

学校や環境学習の場での配布を予定している。

（木村委員）

猛禽類の生息状況についてはガイドブック内に掲載するのか。

（事務局）

可能な範囲で掲載予定。

(3)第3次島田市環境基本計画素案について

・ 質疑応答

（河村委員）

生物多様性の保全はあるが、ミツバチが減っている問題などそういった生態系の保全の観点もとりいれてはどうか

（事務局）

現状、情報を持ち合わせていないので検討する。

（平井会長）

努力義務の生物多様性地域戦略は入れないのか。

（事務局）

現状考えていないが、第4章に関しては環境基本計画の策定委員会にて全庁的に各課長へ施策調査をしているところなので所管課の施策の中で生態系の保全等を含めた細かいところが出てくるかもしれない。今後具体化していく予定。

（木村委員）

公共部門の温室効果ガス排出量についてCO₂換算と記載されているが、メタンや一酸化二窒素などについてはCO₂比の温室効果をかけて出しているのか。また代替フロン類についてはCO₂の1000倍から10000倍の温室効果があるがそれを踏まえた数字となっているのか。

(事務局)

そうになっている。例えば農業部門で言うと水田から発生するメタンは面積あたりの発生量が係数として決まっているので、それに基づいてメタン量を計算し、算出した数値に温室効果係数をかけてCO2換算としている。

(平井会長)

県の温暖化計画では温室効果係数などの表記はどうしているのか

(清委員)

算出方法は同じで、計画の後ろの方に参考資料として掲載している。

(4)ごみ処理の課題解決の方向性について

・質疑応答

(竹林委員)

袋井市のごみ有料化は市民の合意が得られなかったことで再度検討となったと聞いている。自治会連合会へ図ったのち町内会へ進めた方が、周知ができて良いのではないかと。そうして市民とともに考えることで進んでごみ減量に取り組んでくれるのではないかと。

(事務局)

市民がなぜごみ減量が必要なのか理解したうえで立てた目標ならば、達成出来なかったときも市民に納得感があるはず。そのためには市民の理解が必要なのでいただいたご意見のとおり丁寧に進めていきたい。

(平井会長)

袋井市・森町のごみ処理については処理能力がいっぱいになっていることもあり、ごみ減量を進めていたが、市民との合意形成がうまくいかなかったので再度検討となった。島田市でもごみ減量を進めていくにあたってできることをやったうえで難しければ有料化も方法の一つとして考えるということになったということ。

(村上委員)

一住民としての印象は、もっとプラスチックを出して溶融炉の助燃材とした方が良いというものだった。一人ひとりへの意識づけの方法を工夫して行き、浸透するようにしてほしい。

(事務局)

燃焼効率としては確かにプラスチックがあった方がいいが、生ごみなどの焼却しなくて良いものを減らすということが主目的としてある。

(山本委員)

市民としては何をすればよいのかを知りたいと思う。意識づけと同時に、より具体的なごみ減量の方法を伝えたら早く結果が出るのではないかと。

また環境と費用という2つの側面があると思うが、世界的にも関心が高まっている環境の面を強く出していった方が市民の理解を得やすく早期の成果へ繋がるのではないかと。

(事務局)

市から方法を提示してもなかなか浸透しない。自分事に落とし込んで自らできることを考え、目標設定をするということを目的としている。この件に関しては市民に対して丁寧に入っていきたいと考えている。また、ご意見いただいたとおり環境面での啓発も理解を得るうえで大切だと思うが実際問題としてごみの処理にどれだけ費用がかかっているかを

理解いただくのも重要だと思う。これまで生ごみ等の資源化できるものの処理について、燃えるごみにしないための広報を行ってきたが、その周知方法が正しかったのかも含めて改めて検討することが重要だと考える。

(河村委員)

市民がしっかりと理解できる環境という柱をまず提示して、その環境を守っていくためにごみの減量が必要だという話にもっていくべきだと思う。以前エコバックの普及促進を行ったときのように、市民と行政、売り手の三者が協力して行えばスムーズに進むのではないか。

(事務局)

もちろん市民理解を進める中で事業者の協力が必要となれば市としてバックアップしていくことも必要だと思う。

(増田委員)

現在浜松市で有料化の議論が進んでいるが、合意形成の問題なのかやはり市民の関心は費用に集中している。実際にごみ減量を行っていくのは市民なので、島田市の方向性でいう市民の意識改革が重要となってくる。市民一人ひとりの取り組み度合いは積極的な人とそうでない人で違うと思うが、それでも意識が変われば積極的でない人もある程度は取り組んでくれる。そうなれば意識改革がなかった時と比べて結果は大きく違ってくる。

(事務局)

市民は環境に対する危機意識を持っていると思う。そのためにできることの一手段としてごみ減量があり、その方法を共に考えていくことで意識改革に繋げていけたらと思う。

9. その他

(事務局)

次回について秋ごろを計画しているが未定。日程が決まり次第連絡する。

以上